

「書類審査」について

ICU 高校では 2007 年度から、帰国生徒を対象とした「推薦入試」と「書類選考 A 入試」で「書類審査」を行います。

ICU 高校の帰国生徒を対象とした書類選考入試には、毎年 40 カ国以上の異なる国々の学校から 300 人以上の帰国生が出願します。帰国生が通っていた学校のカリキュラム、学習言語、評価方法はそれぞれ異なります。これらの帰国生に対して日本のカリキュラムに基づいた入学試験を行っても、彼らの学力を正しく評価することはできません。

ICU 高校は創立当初から外国の学校で教育を受けた帰国生に対しては、「書類審査」という入試選考方法を行ってきました。これは、志願者に中学校 3 年間のスクールレポート（通知表）や外国語の共通テストの結果などを提出してもらい、本校教員がさまざまな角度から厳密に審査する選考方法です。提出書類は、20 人以上の教員が何回も審査します。一人一人の海外在留歴を見ながら、現地校での学習言語の習得状況、履修科目の種類や難易度、成績の向上、レポートカードの所見、帰国後の成績の向上などを審査します。さらに、在留国別や教育制度別の審査も行います。成績だけではなく、海外の学校での適応、授業参加、積極性も重視されます。

「書類審査」を正確に行うためには、各国の教育制度、カリキュラム、評価方法を理解する必要があります。アメリカ合衆国の同じ州でもカリキュラムや評価方法は異なります。また、インターナショナルスクールには、英国系、北米系、カナダ系、フランス系、ドイツ系、そして IB 系の学校があります。ICU 高校は、過去 30 年間に受験した 10,000 人以上の志願者の「書類審査」を通して、各国のスクールレポートや帰国生の教育背景について学び、その知識と情報を蓄積してきました。「書類審査」の経験は、ICU 高校の授業のあり方にも大きな影響を与えています。帰国生を日本の教育の「枠にはめる」のではなく、彼らの「教育背景を生かし、能力を伸ばす」という教育実践に結びついているのです。

追跡調査の結果、「書類審査」は志願者の学習状況や学力を知る非常に有効な入試選考方法であることがわかりました。日本では「書類審査」による入学試験はまだ一般的ではありませんが、中学校全期間の学習状況と成果を詳細にかつ全体的に見る「書類審査」は、学力試験では評価できない生徒の日常の姿と学力を知ることができる審査方法です。

受験生には、毎日の勉強と生活を大切にしながら努力をしてほしいと、ICU 高校は願っています。